

(様式第3号)

政務活動報告書

会派名 (会派未来ネット)

活動事項	行政視察
活動年月日	令和5年11月7日(火)～令和5年11月9日(木)
場所	馬路村農業協同組合、安芸市、高知市
活動の相手	同上
参加議員名	長坂則翁、勝田鮮二、米村京子
目的・内容 ・結果等	<視察項目> ○6次産業化の取組について(馬路村農業協同組合) ○農福連携事業について(安芸市) ○マンホールトイレ整備事業について(高知市) ○地域おこし学校「こうちみませ楽舎」について(高知市) <所見等>・・・別紙
関連する 支出伝票番号	26, 27, 28, 29

(様式5)

視 察 報 告 書

令和5年11月10日

鳥取市議会議長 西村 紳一郎 様

鳥取市議会 長坂 則翁

令和5年11月7日から令和5年11月9日まで鳥取市議会「会派未来ネット」の視察に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等： 高知県馬路村農業協同組合

調査項目

◎6次産業化の取り組みについて

・林業がなくなればこの村はなくなってしまう。ゆずを生かす残すために小さなことから着始められた。

今では、ゆずを通して馬路村のことを知ってもらえるようになったが、30年前は本業の名も知らぬ、よくあつちの村であった。村のほとんどが森林であったため林業が村の主要収入源であった。しかし林業が衰退していくと、この村でこの村で生計を立てられなくなると著した。

「この危機を乗り越えたい限りこの村は守りたい。自然豊かな馬路村と馬路村の村民を守らなくてはならない。思いで馬路村をこの先も守っていくために農協と、農家と、村民と、出来ることはないだろうかと著したのだが、今日のゆず生産に至る経緯である。

○馬路村ゆず生産のこだわり

- 1. おいしくゆずも属やたい、その想いで土から作るおいしく追突。
- 2. 輸送で商品用器から製造販売まで進行、農家を守る。
- 3. 香料不使用で馬路村ゆず株の香も属やたい、とくにこだわりの。
- 4. さらにゆずを生かすため、ゆずツブキゆずを合して栽培も協力の。

○ゆず栽培農家は、約200戸で、化学肥料は使用していない。

[所見]

(無農薬栽培)

○馬路村農協職員は全体で92名(内70名がゆず加工場勤務)

○売上高は昨年28億5000万円まで、これまで最高売上高時、
14億円、年であった。売上高は大きく貢献しているのは、
通信販売である。

○ゆず農家の課題(悩み)は高齢化による労働力不足であり、
併 いていわれている。

[所見]

○本市も6次産業化の取組は、行われていすが、
今後、さらに積極的に取組むべきと考へる。
そのためには関係機関との充分な協議と
必要があると思へる

高知県安芸市
調査項目

◎ 農福連携事業について

○ 安芸市農福連携研究会の取り組み

※ 目標は「障害があっても仕事ができる。障害の有無に関係なく、全ての人が生きがいを持って自分らしく生活できる社会の実現」の支援体制と連携の取組を強化する。

※ 取組の概要

(1) 毎月定例会を通じて関係機関との情報交換を積極的に行う事で、必要支援方法・問題点を洗い出し解決を図る。

(2) 安芸市における農福連携の仕組みづくりと障害者理解のための講演や実際に障害者と雇用する農家の体験発表を行うことで取組に対する理解を浸透させる。

(1) 農作業の切り分けを農家に依頼し、わかりやすく作業ができるように動画を作成するなど、素人でも積極的に参加できる仕組みづくり。

(2) 農業就労体験とJA高知県が雇用し、障害者等の作業もバリエーションと農家支援を行うことで就労定着につながっている。

※ 取組の成果

(1) 取組当初の2018年度(平成30年度)には農福連携に参加の経営体は11戸であったが2021年度(令和3年度)には約2.5倍の27戸に増加。

(2) 障害者は取組当初に比べて約6倍の95名まで就労雇用されている。
(一般社団法人のうち絆7割-8割を含む)

(1) 生活困窮から抜け出し200万円を超えの現金ができた利用者もいる。

(二) 一般就労が困難とされた方でも、関係機関やJA高松県安芸地区
無料職業紹介所を通じて一般就労につなげた例もあり。

[所見]

- 本市も農福連携に向けた具体的な取り組みが、
必要と考える。そのためにも何らかの組織を立ち上げる
べきである。
- 特に興味を持ったのは安芸市の農福連携の中で、
特別支援学校との連携が行われていることであった。
- 本市にも、特別支援学校、養護学校等があり、今後
検討により必要がありと考える。
- 安芸市の農福連携は自殺予防の取り組みの
副産物があるといわれていたことが印象的であった。

高知県高知市

調査項目

◎マンホ-トイレ整備事業について

※目的

大規模災害時における災害関連死ゼロを目指し、
主要な避難所への施設マンホ-トイレを整備し、
避難所での良好な生活環境の確保を図る。

※特色

主要な指定避難所の施設に、南海トラフ地震等
大規模災害時のトイレ対策として約1000人の避難者が
2週間使用できるマンホ-トイレを整備するもの。

<整備手法>

- (1) 下水道処理区域外の施設: くり式マンホ-トイレ(新設)
- (2) 旧浄化槽がある施設: くり式マンホ-トイレ(旧浄化槽翻)
- (3) 下水道処理区域内の施設: 下水道接続式マンホ-トイレ

※課題

下水道処理部との連携により、大規模災害時、円滑に
マンホ-トイレから尿を収集、運搬する体制を確立すること。

※事業期間

令和2年度～令和7年度(6年間)

※総事業費(単年度)

134.845千円

※全国的な整備状況 公共用

マンホ-トイレは、340の地方自治体で、合計約24,000基整備されている。(平成27年度末)、国土交通省では、地方公共団体が行うマンホ-トイレの整備を支援している。

[所見]

- 本市のマンホールの設置数は、現在66基であり、今後計画的に増設していく必要があらはと考へる。
- 高知市では、マンホールの組立訓練は、地域の小・中・高生や住民が参加を以て行なわれおり、本市においても災害に感心を持つためにも、地域住民参加のマンホールの組立訓練を行うべきと考へる。

高知県教育委員会

調査項目

◎地域おこし学校「うちみせ集舎」について

※目的

浦

令和2年度策定「長浜・刈置類・瀬戸地域振興計画」を推進し、官民協働のもと、地域課題の解決や地域振興による地方創生に何れも取り組む。

※特色

平成27年3月に閉校した旧刈置類小学校を拠点とし、集まらぬ地域づくりを学び、そこで生まれたアイデアを形にする「学び」と「実践」の地域おこし学校「うちみせ集舎」を令和2年度に1校、令和3年度から本校開校。長浜・刈置類・浦戸をネットワーク、地域の新たな担い手の発掘と育成に取り組むとともに、教室のテーマも振興計画の内容に基づいて計画の推進を図る。これまで「ご当地バーガー」の開発や「ご当地お菓子」の制作等に取り組んできた。

※課題

「うちみせ集舎」の受講生等と地域住民が密に連携し、関係性を構築すること、地域と「うちみせ集舎」の連携を強化し、振興計画の推進に繋げていく必要がある。

※事業期間

令和2年度～

※総事業費

2,278千円

[所見]

- 高知市の地域おこし学校「うちみま世集舎」が、小学校と
中学校と活用し事業が行なわれているが、プレミアム
付R4年度に用講23人が受講したが、R5年度は
10人と受講生が減少している状況である。また10月22日の
通常教室を廃止しているが、2教室のうち1教室は申し込みが
なく、1教室のみを廃止(9人)となっており、R4年度の教室2人
比でも少なく集客が課題となっており、ツリ負に追い込まれ
ている状況で活性化が求められている。
- 高知市では、地域おこし協力隊員2名配置されているが、
本市においての地域おこし協力隊員の活動も総括して
女子が必要かありと考える。
- 本市における未校となっている学校の利活用は、
地域活性化のためにも早急に検討する必要がありと
考える。

視 察 報 告 書 (委員用)

2023 年 11 月 20 日

鳥取市議会議長 様

鳥取市議会 会派“未来ネット”

勝田鮮二



令和 5 年 11 月 7 日から令和 5 年 11 月 9 日まで鳥取市議会 会派
“未来ネット”の一般行政視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり
報告します。

記

11 月 7 日（火曜日）・・・高知県安芸郡馬路村（14：30～16：00）

住所；高知県安芸郡馬路村 3888-4

人口；811 人 世帯数；426 世帯 面積；165.48 k m²

議員；8 名 村制施行；明治 22 年

面会者；馬路村農業協同組合）代表理事専務）木下彰二 様

総面積の 96%が山林であり、この山林の 75%を国有林が占めるという特
異な構造の村で、かつては二つの営林署によって国有林の経営がおこなわれてきた
林業の村であった。しかし山林特有の過疎化は例外ではなく、国有林野事業の経営
合理化による職員の転出が拍車をかけていった。

村は平成 13 年に振興計画の柱として、{永遠のふるさと馬路村}づくりを掲げ、
個性ある自立したむらづくり、持続可能なむらづくり、高度情報化を駆使したむら
づくり、人が元気になるむらづくりに視点を置き、観光や林業・ユズ産業などの地
場産業の振興を目指した村づくりを進めている。

視察項目 ； < 6 次産業化の取り組みについて >

馬路村がゆずの村になる日までの出来事

- ・ 林業がなくなれば、この村はなくなってしまう。
- ・ ゆずで生き残るために小さなことから考えよう。
- ・ 馬路村をこの先ずっと守り、暮らしていくために合併しない道を選択。
- ・ この村で出来る何かを探し続け、村の人々から愛してやまなかったゆずへ行
きついた。

・一人でも多くの人に香り高いゆずの素晴らしさを知ってほしい。



・多くの人々をゆずで魅了したい。⇒全国の物産展を毎日、何年間も渡り歩く。



ゆずの美味しさを一番よく知っている馬路村しかないものをつく

ろう！



ゆずと村を深く理解し愛していた農協だからできる妥協しない商品開発



ごっくん馬路村が誕生



馬路村の大きな転機となった



ゆずの森が完成⇒加工場完成





- 令和5年⇒
- ・日本農業大賞 {食の架け橋部門} 大賞受賞
 - ・農林水産祭 {天皇杯} 受賞
 - ・{ゆずすしの素・具入り} {ゆずだしつゆ・夏季限定} 発売

<課題>

高齢化、人口減少で生産の確保維持政策の考え方を、これからも研究・検討が必要。

<所見>

何と言っても、リーダーの存在である。行政マンを退職し、自分の村を消滅させたくない！一心で50歳のとき地元の農協に再就職。8年間、各市場・展示会を見て研究しながら模索し、ゆず生産を日本一にしたいと、問題点や課題に向き合いながら、一つひとつ解決しながら全員一丸となって取り組んでこられていることに感動した。

- ・農薬散布⇒80%を有機栽培に切り替え、安全・安心の取り組みを実施。
 - ・有機肥料の製造⇒不要となった皮や種を集め、肥料化し農家へ無料配布。ゆず畑へ散布。捨てるものがなくSDGSの取り組みとして、農家も助かるし経営側も廃棄しなくてよいため、とても参考となった。
- ・ぼんず、飲み物などの売り上げが、全体の50%をしめており、さらに全国へ通販事業でオペレーターを配置しておられ、大きく拡販努力され年間28億5000万円の売り上げを確保されていた。
- ・光回線が村全体に入っているなど聞き、取り組みが素晴らしいと感じた。
- ・耕作放棄地にゆずを植え付け、生産量増加に取り組まれているは、用地の利活用として、とても良く参考にしたい。
- ・また、農繁期について、空き家・シェアハウスを提供し、1000円・1H×7H=7000円とし、食費は個人負担だが村のスーパーで購入し、協同でシェアすれば、安くでき若手応援者に講評と聞く。私たちが視察中にも村外より多くの若い男女が施設内を案内されており、Win Winの関係に感銘をうけた。

売り上げも着実に伸びており、研究室・デザイン室もあり、自分たちの手ですべて完結できるシステムづくりで出来ていて、本市でも取り組んで行ければ良いと考える。売り上げが安定しているため、設備投資にもどんどん投資でき、地域のためにも貢献されており、今後の馬路村の動向に注目していきたい。

11月8日(水)・・・高知県安芸市(9:30~11:30)

住所；高知県安芸市矢ノ丸1丁目4-40

人口；15,964人 世帯数；7,989世帯 面積；317.21k㎡

議員；14名 電話；0887-35-1019

市制施行；昭和22年2月11日

面会者；工藤英治市議会議長様、細川英司(議会事務局) 島崎様
中村昭彦水道部下水道課課長様、他数名

視察項目 <農福連携事業について>

安芸市の概要；

<取り組みのプロセス>

2018年；**安芸市農福連携研究会発足**

- ・定例会を毎月開催⇒関係機関と情報交換を積極的に実施
- ・講演会・研修会⇒農福連携の仕組みづくりと障害者理解について講演、実際に障害者等を雇用している農家の体験発表などを実施することで、とりくみに対する地域や関係者の理解を深める。
- ・視察研修及び視察受け入れ。
- ・農業体験⇒農作業や集出荷場の作業を実際に体験することで就労定着。

2019年；**農業就労サポーターを導入**

- ・障害者等の心のケアや農家の支援を担うことで、就労定着につながっている。

安芸市農福連携研究会⇒・障害があっても仕事ができる！障害等の有無に関係なく、全ての人生きがいを持って自分らしく生活できる社会の実現！の支援体制と連携の取り組みの強化。

<取り組みの概要>

- ・毎月の定例会を通じて関係機関との情報交換を積極的に行う事で、現状必要な支援・方法・問題点等を洗い出し解決を図る。
- ・農福連携の仕組みづくりと障害者理解についての講演や実際に障害者等を雇用している農家の体験発表をすることで、取り組みに対する理解を浸透させる。
- ・農作業の切り分けを農家に依頼し、わかりやすく作業ができるように、動画を作成するなど、素人でも積極的に参加できる仕組みづくり。

- ・農業就労サポーターを JA 高知県が雇用し障害者等の作業や心のケアと農家支援を行うことで、就労定着につなげる。

<取り組みの成果>

- ・取り組み当初 2018 年度には農福連携に参加される経営体は 11 戸、2021 年度には 2.5 倍の 27 戸に増加。
- ・障害者は当初に比べ約 6 倍の 95 名まで就労・雇用されている。
- ・生活困窮から抜け出し、200 万円を超える貯金が出来た利用者がある。
- ・一般就労が難しいとされた方でも関係機関や JA 高知県安芸地区無料職業紹介所を通じて、一般就労につなげた事例もある。

<体制図>

安芸市農福連携研究会

- ・保護観察所、弁護士、検事、刑務所との連携が大事。

農家

高齢者も農福連携で元気になる⇒人生の先輩は作業が早い。

障害者等

特別支援学校と連携⇒学校の職業教育、就労支援に農業を取り入れて、卒業後の就労に活かすことが出来る。

<所見>

農業の主力製品は、ナスとユズがしめており、特にナス(短ナス)については生産量日本一とのこと。私たちは、一般社団法人{こうち絆ファーム}北村代表理事が経営されている、ハウス 14 棟と出荷作業所へ現地案内して頂き説明を受けました。周りには多くの農家がハウス栽培を運営されていて、その数の多さにビックリしました。

また、出荷作業所は廃業スーパーを利活用し、障害の方が 20~30 名

雇用されており、その人にあった仕事内容や出来高方式、作業手順書を作成されており、現在までの苦勞が見て理解できた。

“百聞は一見に如かず”とは、こういう事だと感じた。

知的・発達障害・難病など障害を持っている方や生きづらさを感じている全ての方々に寄り添い、農業を中心とした作業に携わることで、社会から必要とされ、生きていく自信を取り戻し、自立をめざしてもらえるような地域共生社会を目指していく！とされ、その考えに感動し、本市にも導入できれば最高だし、講演依頼してみても参考になる。

11月9日(木)・・・高知県高知市(9:00～11:30)

人口；317,220人

世帯数；164,511世帯

面積；308.99km²

議員；34名

住所；高知市本町5丁目1-45

☎088-823-9400

面会者；市議会事務局)森様、他3名

視察項目1 <マンホールトイレ整備事業について>

<目的>

大規模災害時における災害関連死ゼロを目指し、主要な避難所39施設へマンホールトイレを整備し、避難所での良好な生活環境の確保を図る。

<特色>

主要な避難所39施設に、南海トラフ地震等大規模災害時のトイレ対策として、約1000人の避難者が二週間使用できるマンホールトイレを整備するもの。(整備手法；汲み取り式2種類、下水道接続式)

<課題>

し尿収集部門との連携により、大規模災害時、円滑にマンホールトイレから、し尿を収集し、運搬する体制を確立すること。

<所見>

高知市は2017年から災害時のトイレの確保について、プロジェクトチームで検討。発生3日目までは避難所に備蓄している携帯トイレや簡易トイレで対応できるものの、その後はマンホールトイレなどが必要になる。と結論づけられ、小学校の体育館下の駐車場に{災害用トイレ}と書かれたマンホールの蓋が並んでおり、地下には浄化槽として使われていた貯留槽があり、災害時に蓋を開け、便座と仕切りを設置してトイレとして使用出来たり、2021年から5年間で小中学校39か所にマンホールトイレを順次設置されたり、市街地など下水整備地域では下水管と接続されるとの事。市長は「避難所の空調とトイレの整備を進め、災害関連死を防ぐ」とし、今後の大規模災害を見据え、対応対策を先んじての取り組みを、本市も参考とし未整備避難所へ設置するべきと思った。

国交省も各自治体に対して整備を促しているので、是非推進して市民の安全安心の確保をするべきと感じた。

視察項目2 <地域おこし学校（こうちみませ楽舎）について>

担当部課；総務部政策推進室）地域活性推進課

事業期間；令和2年度～

総事業費（単年度）；7, 278 千円

御豊瀬（みませ）小学校は、明治10年（1877）現在の御豊瀬ふれあいセンターの位置に簡易小学校として誕生。漁業が盛んだった。昭和30年には300人を超える児童が在籍していた。しかし、一次産業の衰退とともに若い世代が激減し、児童数も減り続け、平成23年（2011）には全校児童は9人に。

平成24年（2012）3月に、惜しまれながら長い歴史に幕を閉じられた。

<目的>

令和2年3月策定の「長浜・御豊瀬・瀬戸地域振興計画」を推進し、官民協働のもと、地域課題の解決や地域振興による地方創生に向けた、まちづくりに取り組む。

<特色>

閉校した御豊瀬小学校を拠点とし、楽しみながら地域づくりを学び、そこで生まれたアイデアを形にする「学び」と「実践」の地域おこし学校「こうちみませ楽舎」を令和2年度にプレ開校。

令和3年度より本格開校。地域に新たな担い手の発掘と育成に取り組むとともに、教室のテーマを振興計画の内容とすることで、計画の推進を図る。

これまでに、ご当地バーガーレシピの開発やご当地かるた制作等に取り組んでこられた、とのこと。

<課題>

「こうちみませ楽舎」の受講生と地域住民が関わりあう仕組みを構築することで、地域と学舎の連携を強化し、振興計画の推進に繋げて行く必要がある。

<所見>

高知市地域おこし協力隊に若い男女各1名着任され、様々なアイデアを出し合いカタチにしながら、「学び」と「実践」の地域おこし学校を楽しみながら運営されており、とても参考となった。

本市も人口減少のあおりがあり、学校の統廃合により空き学校が増加して来る。本市も他都市を参考とし様々なアイデア出し合い、地域と協働しながら利活用出来るよう共に推進したいと考える。

視 察 報 告 書

令和5年11月14日

鳥取市議会議長 西村 紳一郎 様

鳥取市議会 米村 京子

令和5年11月7日から令和5年11月9日まで鳥取市議会「会派未来ネット」の視察に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

○6次産業化の取り組みについて（馬路村農業協同組合）



馬路村はかつて林業が盛んな村だったが、徐々に衰退していった。馬路村の未来を守るため、他の市町村と合併しなかった村民の力強さと団結力が、現在のゆずの栽培と販売の成功につながっていると農協の方の話から実感した。

馬路村では、農家を守るため、また、本物のゆずの香りを全国に届けたいというこだわりから、自分たちで商品開発から製造・販売まで行っている。スーパーでも見かけることがあるゆずドリンクやポン酢だけでなく、種子を活用した化粧品も開発しているとのことで、今後も発展が期待される。

現在は、Instagramやフェイスブックなど若手チームによる SNS での情報発信も行っており、このような取り組みも評価され、2023年には農林水産祭の多角化経営部門の天皇杯を受賞された。通信販売が売りに大きく貢献しているとのことで、情報発信とオンライン販売の促進が6次産業においても重要であると感じた。

馬路村では高齢化による労働力不足の解決が課題となっており、ゆず収穫を通して馬路村の暮らしを体験してもらうワーキングホリデーの取り組みも行っている。繁忙期には県外からも若者が働き手としてシェアハウスに滞在するとのことで、視察中にも説明を受けている若者の姿が見られた。

○農福連携事業について（安芸市）



農福連携とは、障がい者や高齢者などが農業分野で活躍することを通じて、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取り組みである。自殺予防の取り組みとして始まった安芸市の取り組みが、現在では障がいのある方やひきこもり生活を送っていた方の支援へとつながっている。それぞれの方に特性があり、雇用主の理解がなければ成り立たない。行政だけではなく農家や関係機関の協力が重要であり、受け入れ先が増えていることは、勉強会などで理解者を増やしていった努力の成果だと思った。生きづらさを感じている方が、自分の力で賃金を得る喜びを感じ、生きがいを見つけることができるこのような仕組み作りは、本市においても参考となるものである。

○マンホールトイレ整備事業について（高知市）

○地域おこし学校「こうちみませ楽舎」について（高知市）

高知市では、市内の指定避難所のうち小中学校などにマンホールトイレを順次設置しているとのことである。南海トラフ地震等災害時のトイレ対策として整備を進めている事業であり、本市においても災害への備えとして整備を進めている。学生が参加する設置訓練も行われており、日頃から災害に対して関心を持つことや非常時での実践にもつながる取り組みであることから、本市においても定期的な訓練は重要であると考えます。

こうちみませ楽舎は、使われなくなった校舎を活用したユニークな取り組みである。幅広いテーマで開催されており、単発での開催もあるので気負わず参加することができる。地域おこし協力隊が企画・運営に携わっているとのことだが、受講生の数が伸び悩んでおり課題も抱えている。本市にも使われなくなった施設があるため、その活用について様々な可能性を検討すべきである。